

保健師

シリーズ⑥

母子健康手帳を

積極的に活用しましょう



母子健康手帳は、お子さんを授かったお母さんに交付しています。

妊娠や出産、また子育てへの不安はつきないものですが、母子健康手帳には、そんな不安を解消してくれるさまざまな情報が記載されています。

また、妊娠中の経過や出産時の状況、乳幼児期の健診結果や予防接種状況などの記録が記入でき、お母さんとお子さんの健康管理に大変役立ち、お子さんが将来、進学や就職をする時にも活用されるものです。

そのほか、保護者の方の記録欄があり、お子さんの成長に合わせて、嬉しかったこと、ドキドキした出来事などを記入することで、世界に一冊しかない我が子の母子健康手帳ができます。そして、お子さんが成長し、親になる時には、ご両親が記入した母子健康手帳が最高の育児書となります。

お子さんの健やかな成長を支える母子健康手帳を大切に、積極的に活用しましょう。

【母子健康手帳の交付場所】

福祉健康センター、役場

〈持ち物〉医師または助産師から発行される妊娠証明書

【妊娠中の生活や育児の相談】

○育児相談・マタニティ相談（毎月開催）

妊娠中の食生活（貧血予防・体重増加など）、お子さんの成長発達や離乳食など保健師・栄養士・歯科衛生士がお話を伺います。開催日は、広報かさまつをご覧ください。

○プレパマクラブ（毎月開催）

妊婦とその家族の方たちの交流の場です。妊婦さん同士の情報交換や妊婦体験など、参加された方のご希望に合わせた内容で開催します。

○電話相談・家庭訪問

電話での育児相談や、家庭訪問も行っています。

このほか随時、妊娠中や出産後の生活や不安について、保健師がお話を伺います。（福祉健康センター）

【問 合 先】福祉健康課

かさまつの民話『昔むかし』

マリア像③

「このままでは、あの子らはうえて死んでしまう。妻の病気も重くなるばかりじゃ。」

又吉は、奥でねている子どもたちや、やつれた妻の方へ目をやった。三人とも、おちくぼんだ目だけをこちらに向けていた。

「銀三百枚。重蔵さまのことを話せば、銀三百枚がもらえる。」

「銀、三百枚。銀三百枚。」

又吉の頭の中を、子どもたちや妻の顔、やさしい重蔵の顔、さっき見たマリア像などが、まるで走馬燈のように、グルグルまわっていた。

又吉は、ムクッと立ち上がると、何も言わずに外へ出た。そして、今来た道をひき返すように、笠松の町へと足早に歩き始めた。

いつの間にか陣屋の前に立っていた。門の前でしばらくためらっていたが、何ごとか決心したように、陣屋の中へはいっていった。

ひびわれした田んぼに水をくみ入っていた重蔵の目に、家の方へ向かってくる大ぜいの役人の姿がうつった。重蔵は、役人の来たわけがすぐにわかった。あわてて中へはいると、表の戸をかたくしめた。そして二人の娘と妻をマリアさまの前にすわらせた。

「いいかい、これから、マリアさまに最後のおいのりをしよう。」

「天にましますわれらが神。…アメン。」

と、右手で十字を切り、やさしく言い聞かせた。

「どんなことがあっても、命ごいをしたり、マリアさまにそむくようなことをしたりしてはいけないよ。わたしたちを救ってくださるのは、マリアさまだけなのだから。」

重蔵の話が終わるやいなや、表の戸板をやぶって、役人が上がりこんできた。そして、四人を後ろ手にしぼり、陣屋へひきつれていった。（つづく）



キリタン灯籠
(笠松小学校中庭)